

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム風のふく丘三ヶ敷
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	佐賀県・基山町
記入者名 (管理者)	益永さおり
記入日	平成 20年 9月 1日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>基本的理念の「家庭的な雰囲気」「全員笑顔で明るく」「のんびりと」「不満、不安をなくし」「くらしやすい生活が出来るように」「思いやりある」「介護をめざします」に加え地域密着の理念を利用者一人ひとりが地域の中で地域の一員として楽しく健康で自分の家で暮らしているように「地域の方といつも笑顔であいさつ」と理念をつくりあげて、継続支援している。</p>	<p>隣り近所を散歩することにより、顔なじみになりつつある。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念は職員と話し合いで決めたものであり、朝礼時に毎日、理念を唱和することにより理念を実践する様に取り組んでいるし、申し送り時やカンファレンス、勉強会時等に意見交換を行い共有している。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族、親族、友人等の面会時、見学者やボランティアの受け入れ時、運営推進会議、散歩の時での近所の方と立ち話時等、ことあるごとに話しをして、理解を深めてもらうように日々努力をしている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>散歩時に挨拶を交わしたり、立ち話をしたり、駐車場や道路を開放して近所の方は誰でも利用していただいたり、もうそう竹藪も開放して、近所の方が竹の子を掘って、持ってきてくださっている。時々、近所の方からおすそ分けのおからを頂いたり、職員の親睦会(蛍見会、焼肉会)の時にも近所の方にも声をかけて参加していただいている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域行事や敬老会への参加を区長さんより声をかけていただいているので職員だけの付き添いでなく、家族の協力(引率、付き添い等)で参加し、地元の人々と交流することが出来るように努めている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	グループホームには介護についての専門職が居るので「介護よろず相談受付」を行なってはと話し合っている。運営推進会議で検討し実施したいと思っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の意義について話し合い、意見交換を行い、職員の質の向上、提供サービスの向上につながるように努力している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催して、意見が出た場合はすみやかに検討、実行し、次回の会議で報告を行い、サービスの向上になるように努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要に応じて市町村担当者より助言や指導を伺ったりしている。グループホーム協議会にも参加しサービスの質の向上が図れるように取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	佐賀県社会福祉協議会や福岡県社会福祉協議会、グループホーム協議会などの研修会に参加し、参加した管理者、職員が職場に資料を持ち帰り、参加できなかった職員に資料をコピー配布して職場内研修を行なっている。	○	現在は、制度を利用してある方は居ないが、希望があれば地域包括支援センターや関係者等と連携し制度が活用できるように支援していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者に対する虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」についての研修会等があれば管理者、職員が参加して資料を持ち帰り、資料をコピー配布して職場内研修を行い虐待が起きない、起こさないように努めている。また、外出外泊時には要観察を行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり解約をする場合は契約書、重要事項説明書等を提示し、利用者、家族の不安や疑問をなくすように十分な説明を行い理解、納得していただいている。契約書、重要事項説明書には署名、捺印していただき、家族控えと事業所控えの二部を作成している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活や会話の中から意見、不満(言葉、行動、表情等)を読み取れるようにしている。出てきた意見、不満等は職員間で話し合いして情報の共有を図り、改善に向け取り組んでいる。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	バスハイクや野外活動、日頃の様子のスナップ写真を掲示し、面会時に見ていただいたり、持ち帰りしていただいている。病院受診時にはその都度、電話での連絡、報告をしている。金銭管理は金銭出納帳にて説明をして、納得のうえ署名をいただいている。家族の方とも面会時や運営推進会議等で交流を深めて話しやすい雰囲気が出てきている。広報誌の発行にも努めている。	○ 広報誌や個別のたより等の回数を少しでも増していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、行事、家族会、家族等の面会時には職員が必ず対応し利用書の方の状況報告を行い、家族からも意見や希望を伺っている。意見、不満、苦情を受け付けるホーム側の窓口がわかるように掲示して、意見箱も設置している。また、外部相談窓口のポスターも掲示している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや職員会議において意見や提案を聞くようにしており、出てきた意見については十分に職員全員で話し合い、必要なことについては取り入れて改善実施に努めている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況変化や行事の際には職員に理解を得て調整を行ない、十分に確保できている。本人の希望等も取り入れて、シフトを組んでいる。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の家庭事情を理解配慮した勤務体制の為離職はまれにしかないがやもえない場合には利用者に直接伝えないようにして、ダメージをあたえないように配慮している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
い			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会主催の研修には必ず参加するように努めている。また、病院内研修やリーダー研修、県社協の研修も段階に応じて、受けている。ホーム内研修では看護師による感染予防等をマニュアルに添って勉強会を行なっている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員が、研修会やボランティア活動を通じて他施設の訪問や交流を図り、お互いの困っている点や工夫している所を話したり見たりしたことを運営者に報告し、改善できることはないか、取り入れられることはないか話し合うようにしている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年四回程親睦会を行い、その時にさりげなく意見や悩みを聞いたり、退社時に聞いたりしている。また、勤務表作成時に休日希望を十分に受け入れするように努めている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	ほぼ毎日、訪問しているため、職員の勤務状況や個々の努力、実績は把握できている。職員に声かけし、介護の大変さや楽しさを共感し合い、長所を誉めるようにしている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	情報を得てから本人の事はだいたい把握しているが本人に会ってからは本人の思いや不安、希望等を生活の中で言っている、独り言、つぶやきも聞き逃さず、知る努力を行なって、本人の意向をプランに取り込み支援するようにしている、また、思い込みがないように定期的に本にも確認するように努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の思いを十分に受け止め、家族が納得のいくまで話を聞くようにして、家族の意向をプランに取り組み支援して、定期的に家族にも確認している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意向や本人の日常生活や状況を把握し、家庭での生活ができそうであれば地域サービス提供について説明や紹介を行なっている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に本人のホーム見学を勧めている、ホームの雰囲気や環境を見てもらい、昼食やおやつを他の入所者の方と一緒に食べていただき(体験入所)、本人、家族の納得の上で利用していただいている。また、他のホームも数多く見ていただくように説明し、納得した上で利用していただいている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の味付けや味見、方法を教えていただいたり、畑仕事の手順を教えてもらったり、包丁を使っての野菜の皮むき、きざみ、器へのつぎわけ、食器片付け、食器荒洗いなど一緒に行なっている。また、電話が鳴っていることや、お客さんが見えたことを職員に伝えてくださる。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事(花見、高塚地蔵参拝、敬老会、餅つき会等々)実施時に家族、利用者、職員の交流の場を設けて色々話し、お互いに相談したり助言したりして、一緒に本人を支えていく関係を築くようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	各行事への家族の参加協力をしていただくように早めに案内文書を送っている。また、家族からの電話や家族への電話も気軽に応じている。面会時には居室や縁側でゆっくり過ごしていただけるように配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけの病院等へ出かけ友人や知人に会うことがあり、若い頃の馴染みの場所や人の話を聞くことで支援に努めている。家族や知人、友人の面会は自由にしていただいている。また、電話の取次ぎも自由であるが必ず相手の確認を行なっている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係は把握できており、トラブルが起きそうな場合には、職員が間に入り、気分を変えるなどの工夫をしている。イスの配置を決め、お互いに支え合えるように支援に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>		<p>長期入院で退所された利用者の方が再入所されても不安や戸惑いも少なく馴染みも早いし、認知症の進行も防止できるので今後も続けて行なう。</p>
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>		
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>		
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>		
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、精神面や体調(血圧、検温、脈拍等)、排泄状況、食事摂取量等をその日の勤務者が個別の記録に記入し、それによって支援の方法や介護計画の見直しをしている。また、毎日の申し送りにて情報の共有化を図っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日々の利用者さんの変化に応じて看護師や家族と相談して看護師もしくは介護職員が引率、付き添いにてホーム車両にて受診し、結果報告をしている。また、家族の申し出により、クルマ椅子専用車両等の貸し出しも行なっている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	公共機関よりヤフードームのチケットを頂いたり、子ども達がちびっ子ボランティアとして遊びに来て、利用者の方と話しをしてくれたり、展示会の出品物の依頼があったりと、理解と協力を利用者さんへの支援に努めている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入所前に利用していたデイサービスの担当ケアマネ、家族と相談したが本人の混乱を招く恐れがあり、早くグループホームに馴染んで欲しいとの家族の要望が強く、他の介護サービスを利用している方はいない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	時々、地域包括支援センターに情報収集や挨拶程度で訪れたり、生活保護の利用者さんの今後、起こりうる成年後見制度利用や権利擁護について話しを聞きに行ったり、相談したりしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人の希望により信頼関係が出来ている、かかりつけの医療機関を継続利用していただいている。その際もホーム車両にて職員の引率、付き添いを行い、医療機関とホームの関係も築けるように支援している。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人としての尊厳を重視し、プライドや人格を尊重して利用者にあわせて対応するように心がけている。また、記録等に個人名を記載しないようにしている。職員には守秘義務についての誓約書に書名、捺印をもらっている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	飲み物の希望(熱いお茶、冷たいお茶、コーヒー、紅茶等)や髪長さ、ご飯の量など何時でも選択できるように声かけをして本人の選択決定のできる機会、場面を多く設けるように心がけて、利用者の方に決定権を持っていただけるように努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や朝食時間、消灯時間、入浴の順番、時間による居場所のは決めておらず、本人の今までの生活リズム壊さないように、本人のペースを尊重し、職員中心のケアにならないように気をつけて業務を進めていくように努めている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	常日頃から髪長さ本人希望で、服の色柄は本人好みで着ていただくように支援している。馴染みの美容室にも家族の協力で行っていただいている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや切り刻み、味見、つぎ分け、配膳、後片付け、食器洗い等、自分に出来ることを職員と一緒にこなしている。また、職員も一緒に同じ食事を取り、介助が必要な方に対しては職員が横に座って、さりげなくサポートしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	酒やタバコは本人と家族が望めば日常的に支援している。飲み物はコーヒーか紅茶、ジュース、牛乳等、また、バナナやお菓子なども個人の小遣いで嗜好に合わせて、一緒に買いに行ったり、代わりに職員が買い物に行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	昼間は全員トイレで排泄支援をしている、訴えのない利用者は定時排泄誘導から排泄時間を把握して、失敗を減らすようにしている。その結果、おむつから紙パンツへ、紙パンツから普通のパンツへと段階を経て、現在男性2人のうち1人、女性7人のうち2人が普通パンツ使用。排泄チェック表にてパターンや状況も把握できるように努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応、入浴の曜日は決まってはいるが、毎日入浴される方や本人の気が向いた時に入浴される方もある。入浴の時間や順番はその日の利用者さんの気分で自由に決めてある。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の生活リズムや習慣を出来るだけ継続支援するために起床・消灯時間、朝食時間等は決まっていない。自室で休んだり、リビングでテレビを観てもらったりしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、食事の準備・後片付け、洗濯干しやたたみ等その人に合わせて、役割を持って頂くように支援している。ぬり絵、ちぎり絵、オセロ、レクリエーションに参加して、楽しんでいただいている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自動販売機でジュースを買ったり、お地藏さん参りでお賽銭をあげられたり、小銭ではあるが、一部の方は自分で管理して頂いている。バスハイク時には個人の小遣いにて買い物を楽しんでいただくように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	話の流れや希望、思いつきで散歩や外で日なたぼっこをしたり、近くの公園に行き、公園で昼食を摂ったり、散策をしたりと日課にとらわれず職員と一緒に外出が出来るように支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出の希望があるときには自由に行って頂いている。現在、花見と高塚地藏参拝(マイクロバス使用)、敬老会は全利用者と家族とともに外出する機会をつくり、支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話をとりついたり、本人がかけたい時は要望に応じている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会、訪問時間は決まっていないのでいつでも自由に来て頂いている。家族の面会時に本人の友人等の面会も進めている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	病院等では身体拘束されていた方でも、本人の行動、仕草の観察を十分行い、拘束が必要かどうか話し合い拘束しない方法で安全に過ごせるようケアに取り組んでいる		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	精神科の投薬調整中等にて情緒不安定時に短時間施錠することがたまにあるがその他は日中は玄関の鍵はかけていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	リビングにおられないときは、どこで何をされているか職員同士で声かけしながら居場所を確認、把握して安全に配慮している。夜の巡回時には足音や戸の開け閉めに気を使っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁・はさみ・針など本人の希望があれば必要なときだけ提供し、使用後は目のつかない場所に保管している。内服薬、洗剤類等も目のつかない所に保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	誤薬がないように服用の際は本人の前で名前と日付を復唱し、必要に応じて口の中に入れるまでの介助をおこなっている。火災予防には、ガス元を離れる際は必ずロックをかけるように徹底している。転倒の可能性のある方は見守り、手引き歩行、立ち上がり時の介助などその方に応じた介助をし、事故防止に取り組んでいる。		ヒヤリハットを記録し、事故を事前に防げるようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルは見やすいところに置いている。実際にあった今までの急変時の様子や対応を職員同士で情報交換を行っている。	○	定期的ではないので、定期的に行っていききたい
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議等を通し、区長・民生委員の方から、地域の方の協力を得られるように働きかけていただいている		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族には、状況に応じて説明を行っている。また面会時に、以前の対策方や、今後どうしてほしいなど話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日同じ時間にバイタルチェックを行い、いつもと少しでも変化のあるときは、バイタルチェックをこまめに行い、表情や顔色、食事の量など観察し記録に残し情報の共有化に努めている。状態の変化によっては看護師より医師へ報告してもらい指示をうけている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院、医師の指示どおり服薬の支援をしており、症状の変化は常に看護師に報告している。個人ファイルに薬の説明書を綴じ、薬の目的、用法、用量についてはいつでも確認できるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因を理解しており、水分摂取を促したり、ヨーグルト(毎日摂取)や食物繊維の多い食物の摂取などの工夫をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯ブラシに歯磨き粉をつけて渡し、自分で磨いてもらう方、義歯を外し、うがいだけしてもらい、義歯の洗浄は介助するなど、一人ひとりに応じた支援を毎食後行っている。義歯については夜に洗浄剤を使用して保管している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事(水分)の形態を変えたり、食事(水分)が進むような環境の提供を行い、栄養摂取や水分量の確保が出来るように一人ひとりの状態に応じ支援している。食事摂取量チェック表に毎食記入し水分摂取は最低1日5回行っている。栄養バランスについては受診時、確認している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し、毎日手洗い、うがいの実行をしている。共用のタオルは使用しないようにしている。医療、保険、福祉等からの通達や情報収集し、未然防止に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食事前にはアルコール噴霧した手拭で手を拭いていただき。包丁やまな板は使用する前にアルコール消毒を行なって、使用しているし夕食調理後には漂白殺菌を行なっている。食器類は乾燥機で高温乾燥消毒を行なっている。調理後は常温で長時間放置をすることのないように努めている。うがい用コップは定期的に漂白殺菌している。冷蔵庫も月1回		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	民家改修型のため、親しみやすいものである。玄関前にはスロープや手すりをつけている。敷地には四季折々の花を植えているしプランターにも花を植えている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やトイレ、食堂等には四季折々に敷地で咲いている草花を生けている。食堂には西日が当たるのでヨシズを下げ日よけをして、遮光に努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	縁側にソファーや安楽チェアー、イスを置いているので利用者さん一人や利用者さん同士、また、利用者さんと家族や職員とが庭を眺めて、のんびりとした一時を過ごすことが出来るような支援に努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には持ち込み自由になっているので、出来るだけ本人さんが自宅で使っていたタンスやイス、テーブル、まくら等、馴染みのある物を多く持ってきていただくようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気を十分に行なうことによって、排泄の臭いや空気のだよみがなく、心がけて努めている。冷暖房の調整は居室や食堂、脱衣場等に温度湿度計を設置しているのを参考に職員がこまめに調整をしている。また、乾燥には特に注意し居室やリビングに加湿器を置いている。(湿度50～70%目標)		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの必要性に応じ段差解消やテープを貼ったり、手すりを付けている。出来るだけ自立した生活が送れる様に、それぞれの身体機能を活かし、クルマ椅子での自力走行や手引き歩行、介助による歩行、見守り歩行を行なうことで、自立支援している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室には名札を掲げたり、トイレが分からない方のためにトイレと書いた目印、倉庫には倉庫と書いて貼っている。夜間には常にトイレには電気をつけることによって迷わないようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先の広場で天気のいい時には日光浴をしたり、テーブルを出してきておやつを食べたりして楽しんでも。グループホームの立地環境や空き地等を活かして、春には竹の子堀見学、蒔取り、草花摘み、草取り、柿ちぎり、梨ちぎり、畑に野菜収穫など等活動できることを多く取り入れている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の方々の一人ひとりの思いを理解し「家庭的な雰囲気」「全員笑顔で明るく」「のんびりと」「不満、不安をなくし」「くらしやすい生活が出来るように」「思いやりある」「介護をめざします」と理念に沿って、悔いのない介護を毎日、試行錯誤でサービスの提供を行い、利用者が自分の家でいい生涯だったと思えるよう、職員も元気で明るく、仕事を頑張っている、グループホームであると理解し認めていただけると信じています。